

3. 今後に向けて

～今までも大切にしていたこと、これからも大切にすること～

◇家庭で育まれていること、

これからも育んでほしいこと

◇学校で育まれていること、

これからも育んでいくこと

◇授業改善を通して育まれていること、

これからも育んでいくこと

今後に向けて ～今までも大切にしていたこと、これからも、大切にすること～

家庭で育まれていること、これからも育んでほしいこと

◇保護者の支えがあって、育まれてきたこと

ここ数年の経年変化のデータにより、家庭における基本的な生活習慣においては、保護者の家庭での協力によって、規則正しい生活を送っている児童が多い傾向が見られます。また、放課後の学習時間の取り組みについても、計画的に学習している割合が増えていることが分かりました。児童・生徒がよりよい成長につなげるためには、家庭と地域の協力が必要です。これまで、家庭で取り組んできた積み重ねが着実に成果として表れています。

しかしながら、中学校生徒質問紙の一部の項目において、例年に比べて低い結果が見られました。様々な項目で年度によって結果が異なることについては、学校・学級と地域が相互に課題を認識、共にその解決に取り組んでいくことが必要です。

◇家庭での会話で育んでいきたいこと

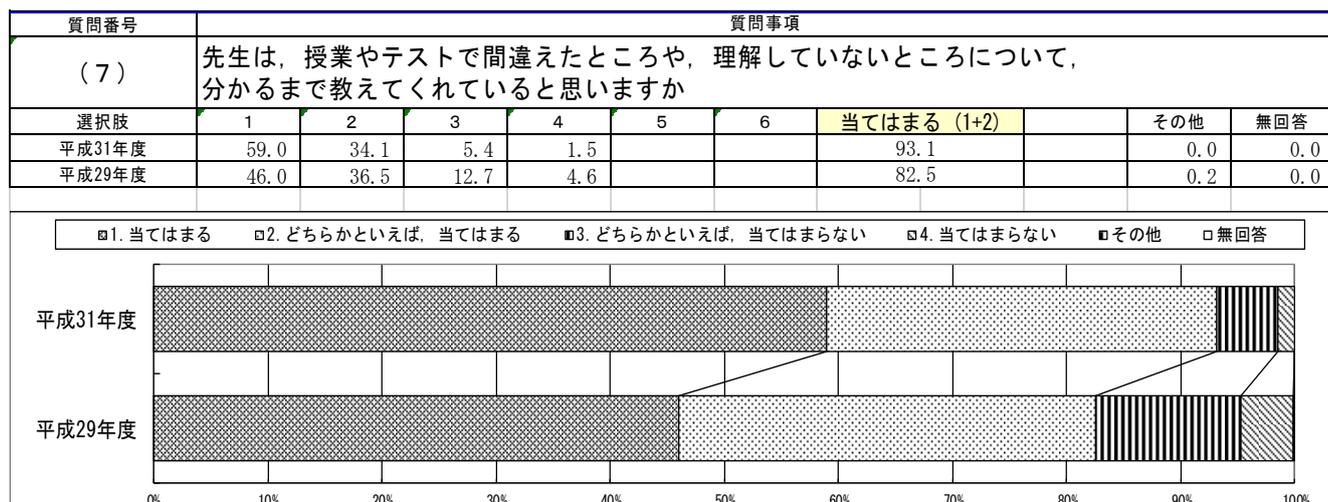
ここまで分析において「考える」ということを課題として挙げました。児童・生徒質問紙調査からは、学校での出来事を家庭で話す児童・生徒が少ない傾向が見られました。家庭において、話す機会を確保することによって、現在の子どもたち様子や状況について理解することができるとともに、「考えて、発信する」という場が必然的に生じます。家庭においても、話す機会と時間を確保して、児童・生徒にとっての思考力を伸ばしていくためにも、話す機会を持って下さい。

学校で育まれていること、これからも育んでいくこと

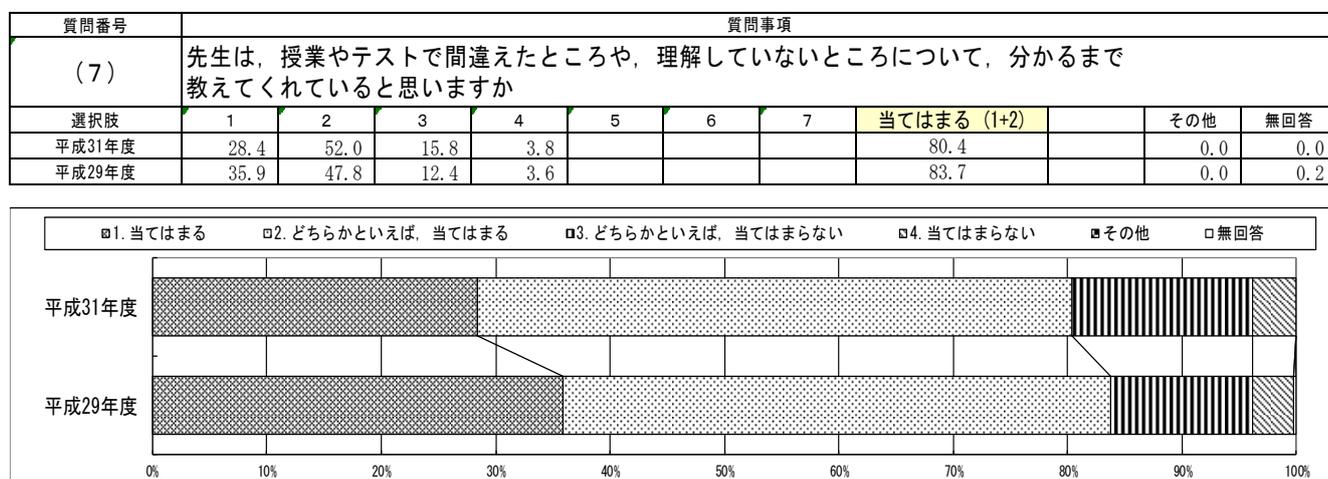
◇先生と児童・生徒との温かい関わりの中で、育まれていること

児童・生徒質問紙調査の結果からは、小学校において、先生との信頼関係の割合が高い傾向にありました。このような信頼関係が素地となって、学級での文化が育まれていきます。教師は、学んだことに対して全ての児童・生徒が、「できる」・「わかる」ようになってほしいとの思いをもって授業をします。この結果からは、児童・生徒に対して、「できるようになるまで」、「わかるようになるまで」、しっかりと教えるという教師のあきらめのない、粘り強い姿勢が読み取れます。間違えたところや、分からないところをそのままにせず、児童の実態に即しながら、できるようになるまで、個別で対応するなど支援・援助をすることで、学習の定着を図ろうと取り組む様子が伝わってきます。

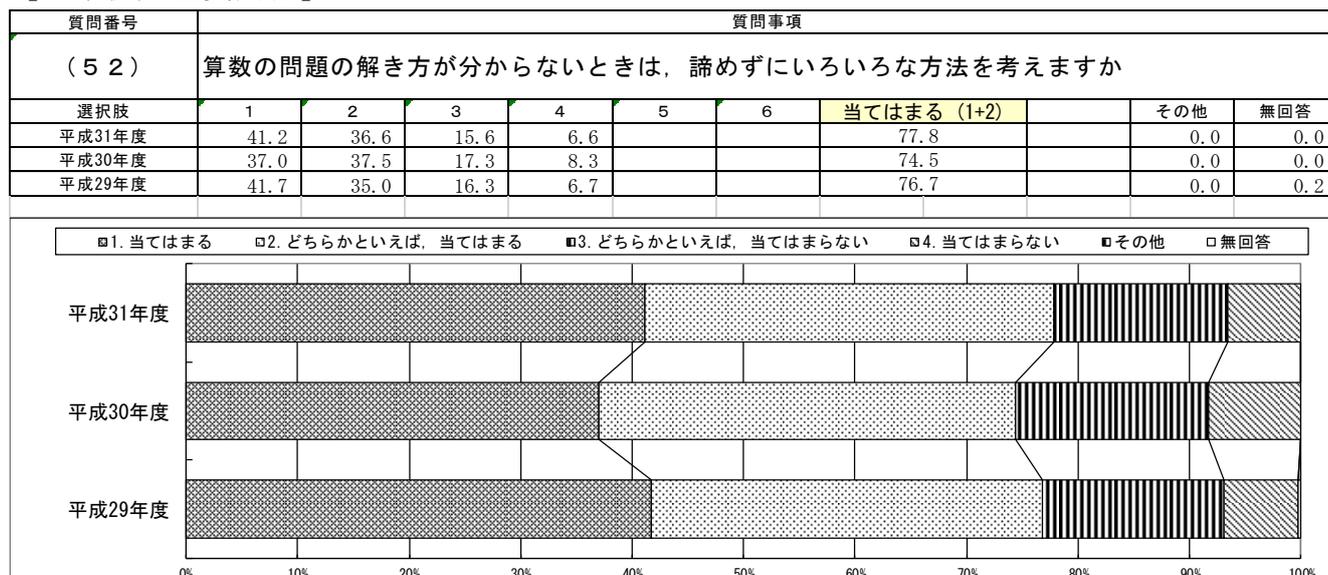
【小学校児童質問紙】



【中学校生徒質問紙】



【小学校児童質問紙】



上記の【児童質問紙調査52】より、児童・生徒が問題を解こうと前向きに取り組む姿が見られています。児童・生徒に声をかけて励ましたり、分かりやすい説明となるように

工夫したりする教師の陰ながらの努力があります。このような、日々の積み重ねによって、あきらめないで取り組むという姿勢が育まれていくと考えられます。教師が児童・生徒一人ひとりに対して、丁寧に関わることで、学習に対する意欲がわき、児童・生徒もあきらめずに取り組もうとする粘り強さが育まれていくと考えられます。教師の姿が、まさに子どもの姿として表れています。

3つの育成すべき資質・能力における「学びに向かう力」が大切にしている側面に、粘り強さがあります。この「学びに向かう力」は、家庭と学校のしっかりとした生活の基盤があつてこそ、育まれていくものです。家庭における規則正しい生活習慣の確立と、教師が児童・生徒一人ひとりに対して、温かく丁寧に接することによって、物事に対してあきらめない前向きな姿勢を育成していくことができると考えられます。

◇主体的・対話的で深い学びの授業改善を通して、育まれたこと、これからも育んでいきたいこと

「主体的・対話的で深い学び」の授業改善においては、各校での継続的で熱心な取り組みが児童・生徒質問紙調査の結果に表れていました。寒川町では、校内研究において、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、研究に取り組んでいます。

また、学びっこ推進委員会において、各校の校内研究の様子や状況について、情報交換を通して、お互いの学校に持ち帰り、研究を深めています。町内全校で、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、研究に取り組むことができていることは、とても価値のあることです。教科調査の分析結果からは、各教科に共通して「思考すること」（思考力）に課題があることが見えてきました。「思考力・判断力・表現力」を育んでいくためにも、「主体的・対話的で深い学び」の授業研究を深めていくことが大切です。

しかしながら、我々が求めていることは「主体的・対話的で深い学び」の授業改善が目的ではなく、寒川の子どもたちに育まれるべき、3つの資質・能力を育成することが目指すべきゴールとなります。「どんな子どもに育てていきたいか」を常日頃より意識し、よりよい授業づくりにむけて取り組む必要性があります。

今後も、校内研究や学びっこ子育成推進事業を柱として、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた取り組みをさらに推進して、子どもたちの資質・能力を育むと共に、教師の授業力を向上させていきたいと考えています。

◇「教室を離れても学び続ける子どもの姿を・・・」

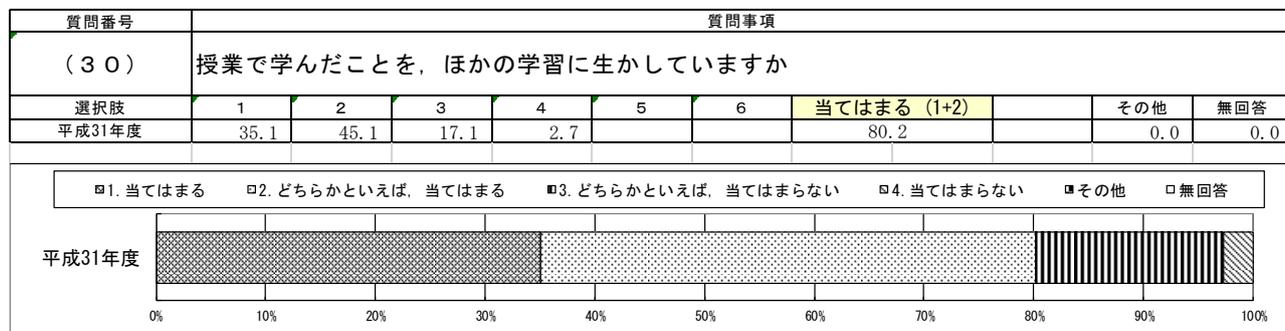
下記の質問項目については、今年度より質問紙に加わった新規項目です。

【児童・生徒質問項目（小・30）（中・33）「授業で学んだことを、ほかの学習に生かしていますか」】

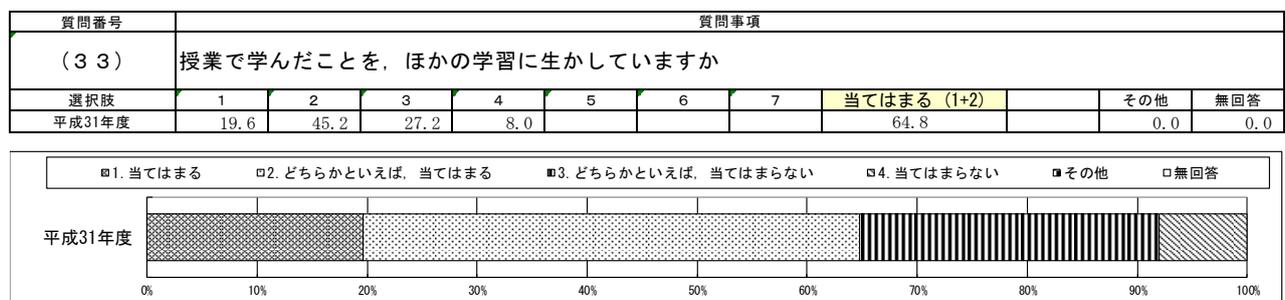
この質問項目からは、授業で学んだことを、実生活の場面で活用したり、他の教科と関連付けたりしながら、学習したことを、生かし活用していく姿がイメージできます。

前述している通り、これから先、このように学習したことを活用することができることが大事でとなってきます。単に、知識を獲得するのではなく、「生きて働く知識」となるよう、さらには「学びを教室という狭い空間」で完成させるのではなく、「教室を離れても学び続ける姿」を、意識しながら授業を創っていくことが必要であると考えます。この質問項目については、今後も注意深く見ていく必要性があります。

【小学校児童質問紙】



【中学校生徒質問紙】



以上のように、児童・生徒の努力、保護者の支え、地域の協力、学校における授業改善の実現によって、寒川の子どもたちの資質・能力が少しずつですが着実に積み上げられてきていることがわかります。学校、地域、家庭が、子どもたちの未来のために、これからも同じ方向を向いて、一緒に手を取り合って取り組んでいきたいと思えます。

今後も、それぞれが適切な役割を果たしつつ、パートナーとして、未来の宝である「寒川の子どもたちのため」に連携、協力していくことが必要となります。